えびな支援学校

地域支援のしおり

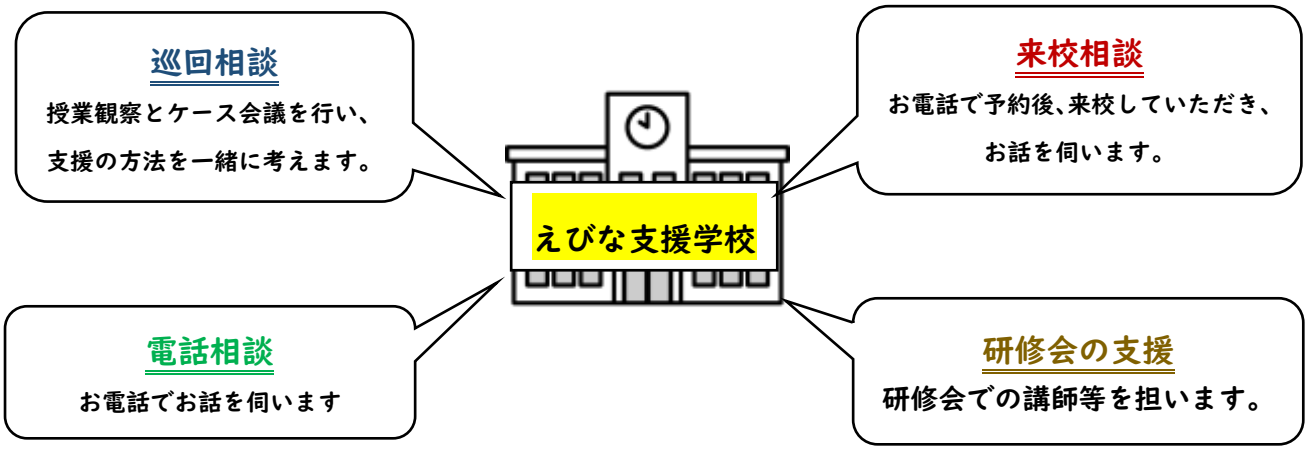
～教育相談について～

（令和５年度版）

えびな支援学校　連携支援グループ　相談支援チーム

えびな支援学校の地域支援について

えびな支援学校では、地域のセンター的機能の取り組みとして小学校、中学校、高等学校、幼稚園、保育園の先生方から以下のような相談に応じています。又、地域の保護者の方々に対しては、電話相談・来校相談をお受けしています。



来校相談について・電話相談について

まずは相談担当にお電話ください。相談内容を伺った後、予約をしていただきます。ご都合が良い日時をお伝え下さい。相談チームで相談し担当者を決定します。

０４６（２９２）５６１８（相談直通）

巡回相談について

えびな支援学校では、地域の小学校・中学校・高等学校、幼稚園・保育園等からの依頼に対し、主に教育相談Ｃｏ又は専門職が学校等を訪問し、子どもの見立てや課題の整理を行い、困りに対する支援の方法を一緒に考えます。巡回相談を依頼されるにあたっては、各学校内での校内支援の内容とその効果を伺った上でご相談に応じます。学校訪問時には、授業観察とケース会議を行います。

＊本校には専門職（理学療法士）がいます。本校にいない専門職（臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士）については他の県立特別支援学校に配置されている専門職に依頼することもできます。

巡回相談で扱う内容

□発達のこと　（言葉が遅い、コミュニケーションがうまくいかない等）

□学校生活のこと（読み書きが苦手、落ち着いて座っていられない、感覚過敏ってどんなこと？、友だち関係がうまくいかない等）

□日常生活のこと（食事や排せつが心配、子育て支援してくれるところは？、補装具や支援グッズについて知りたい等）

□指導のこと　（授業づくり・課題設定、教材や支援機器を知りたい、支援が必要な子どもたちに関する研修会を開きたい等）

＊心理検査、発達検査は実施しません。また、就学指導に関わる助言を行うことはできません。

巡回相談スタッフ　～本校には３名のスタッフがいます～

教育相談コーディネーター　２名

教育相談の窓口担当です。学校生活や家庭生活の不安についてご相談いただけます。

□学習内容や教材教具について相談をしたい
□授業のユニバーサルデザインの工夫について知りたい
□福祉サービスについて知りたい

【自立活動教諭】理学療法士（PT）

姿勢・動作など身体に関する支援を行います。身体の特徴を捉え、補装具（車椅子など）や介助の方法などの環境設定について検討し、主体性をもって授業に参加しやすいように支援について考えます。

□歩き方が不安定、転びそうで危ない
□麻痺している身体を、どこまで、どの程度動かしていいのかわからない
□階段昇降の介助方法を確認したい
□座位姿勢や体つくりについて聞きたい

【他の県立特別支援学校に配置されている専門職】※相談の内容によって依頼することもできます。

【自立活動教諭】言語聴覚士（ST）

「言語」「コミュニケーション」「読み書き」「発音」「吃音」「摂食機能」「きこえ」を専門としています。その子が持つ力がより発揮されるよう、日常の中での支援について先生方と考えます。

□子どもの発信を引き出したい
□読み書きのつまずきに対応したい
□集団に参加できる場面を増やしたい
□吃音への対応を知りたい
□適切な摂食指導の方法を知りたい

【自立活動教諭】作業療法士（OT）

身体面や行動面を分析し、具体的な支援について考えます。食事、排泄、更衣など日常生活動作に関する事、手指の操作、道具の使い方などを専門としています。

□手先の使い方を促す指導について相談したい
□靴の脱ぎ履き、洋服の着脱の工夫を知りたい
□箸の持ち方や鉛筆の持ち方が気になる
□遊びや余暇活動を広げたい
□音への過敏さ、視覚刺激への対応を知りたい

【自立活動教諭】臨床心理士（心理職）

学習面や生活面、友だち関係などの社会性を含め、生きる力を育むことを目指して発達全般にかかわる支援を行います。知覚や認知の特性に応じた指導方法や内容を一緒に考えます。

□気持ちが不安定になることが多い
□暴力や暴言が多い
□集団になじめない、落ち着きがない
□親子関係、友だち関係、友だちとの喧嘩が絶えない

巡回相談について（受付から当日までの流れ）

電話での受付

＊教育委員会が集約している自治体もあります。

各校のＣｏからえびな支援学校Ｃｏ（又は委員会）へお電話を！

・対象のケースに関わる先生方が話し合い等を行い、校内で共通理解が図れましたら、本校Ｃｏ（又は委員会）にお電話をください。

・相談内容（主訴）、相談対象者のプロフィール（家族構成、診断名、手帳の有無、ＳＣとの連携や医療機関等）、校内支援の取り組みと成果、保護者や担任の思い等をお伺いします。（教育委員会が集約している自治体は別の書類を委員会に提出する場合があります。委員会に確認して下さい。）

えびな支援学校相談チームで検討

・相談をお受けできるか、担当者等を検討します。（心理検査や発達検査は実施しません。又就学相談に関わる助言を行うことはできません。）

・ケースによっては校内支援の取り組みの検討や継続を提案させていただくこともあります。

日程調整

検討結果を電話でお伝えし、日程調整をします！

・日中に対象のケースの行動観察を行い、放課後に関係者でケース会議を持てる日程の候補日を何日か挙げて下さい。（校内支援を一緒に考えるにあたり、管理職・（指導主事）・ＳＣ等の関係者も参加可能な日程をお願いしています。）

依頼

担任からの聞き取り

メールで必要書類をえびな支援学校の Co 宛にご送付下さい！
（実施日の１週間前までに送付してください）

① 依頼状（P4 参照）→支援学校の学校長宛てのもの
② 当日の日程表
③ 巡回相談事前情報用紙（HP よりダウンロードして下さい）
⇒巡回相談事前情報用紙については送付していただいた後、電話で支援学校の担当者が担任（関係者）に補足事項の聞き取りをする場合があります。

＊必要書類に関しては全て校内で情報共有をした後、起案してご送付下さい。
＊メールはパスワード（電話でお伝えします）付のワード文書でお願いします。
（教育委員会が集約している自治体は、いずれの書類も委員会に送付して下さい。送付方法は委員会にご確認下さい。）

当日

当日の日程（例）

① 10 時半頃～打ち合わせ（Ｃｏ、担任、えびな支援学校担当者等）
＊座席表がありましたらご準備下さい。
② 3 校時位～　行動観察（教科学習・体育的活動・個別学習・集団学習・休み時間・給食の場面等）
③ 放課後　情報整理（えびな支援学校担当者のみ）＊日程に組み込んで下さい。
ケース会　＊ホワイトボード(黒板)をご準備下さい。
＊司会と記録をお願いします。
＊ケース会の進め方についてはご相談下さい。

アンケート記入のお願い

アンケート記入のお願い

① 巡回相談アンケートを巡回相談時にお渡しします。ＦＡＸで返信していただく時期は各学校におまかせします。必要に応じてコピーして下さい。
② 巡回相談評価シートを年度末にメールで送付します。メール又はＦＡＸで返信して下さい。

依頼状ひな形

令和〇〇年〇〇月〇〇日

神奈川県立えびな支援学校長　様

〇〇市立〇〇小学校長

巡回相談にかかる職員派遣について（依頼）

春暖の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
次の内容で巡回相談を依頼したいと思います。つきましては、貴校職員（〇〇〇〇教諭）の派遣について、ご配慮を賜りたくお願いします。

１．日時　　令和〇〇年〇〇月〇〇日　　10:30～17:00

２．場所　　〇〇市立〇〇小学校　　会議室

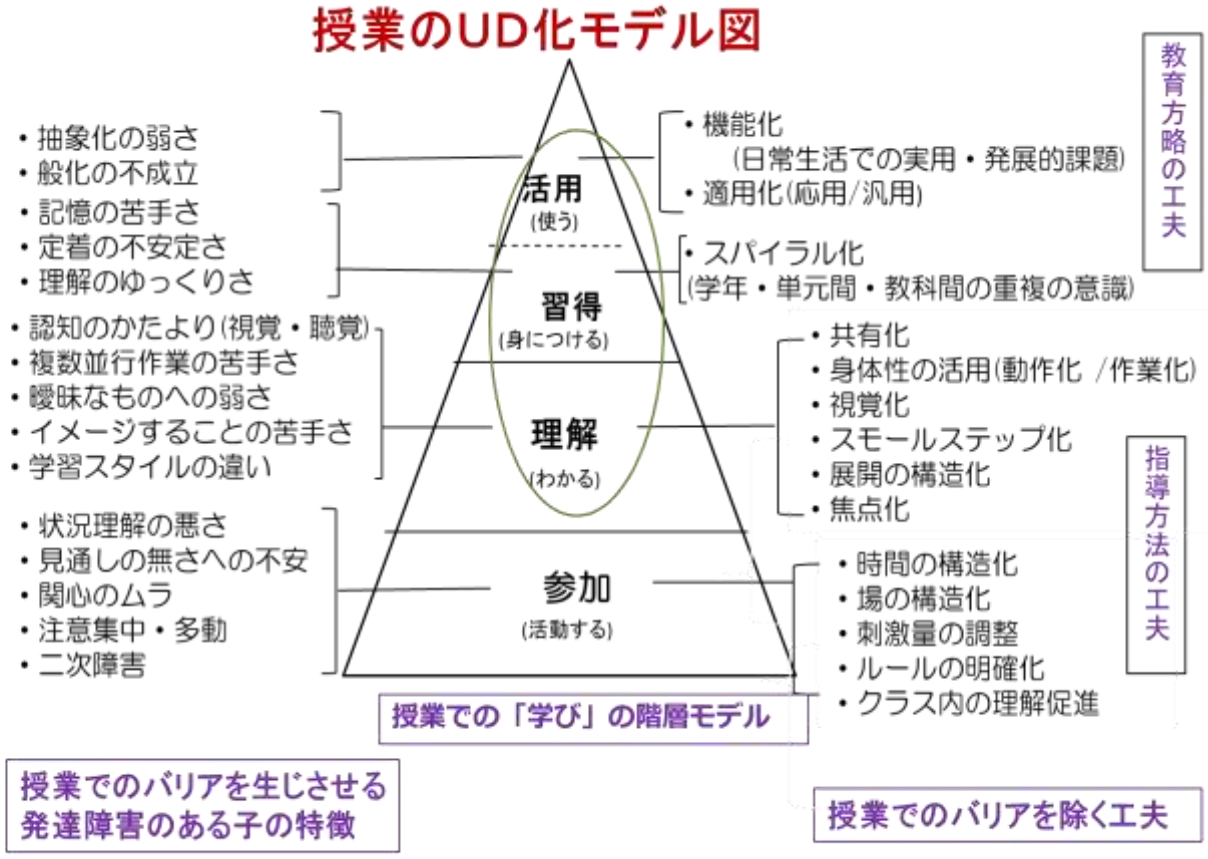
３．内容　　特別支援学級在籍児童への対応について
　　行動観察およびケース会

10:30　打合せ
11:00　4時間目（音楽・支援級授業）
12:00　給食
13:35　清掃
13:50　5時間目（理科・交流級授業）
14:50　6時間目（国語・支援級個別指導）
16:00　ケース会議（会議室）
17:00　終了

問合せ先
〇〇市立〇〇小学校
教育相談コーディネーター
〇〇　〇〇
電話（〇〇〇）〇〇〇-〇〇〇〇

えびな支援学校の授業のＵＤ化について

えびな支援学校では、「授業の UD 化」をもとに、授業を「参加」「理解」「習得」「活用」の４区分に分けて、授業実践に取り組んでいます。また、本校では、子どもたちが“考えて、わかり、できる”授業（ユニバーサルデザイン授業）を展開するための視点として、「えびなスタンダード」（次項を参照）を活用しています。



授業のユニバーサルデザイン研究会　http://hwm8.gyao.ne.jp/kokugouniversal/

○考えて、わかり、できる授業をめざして

※えびなスタンダードをベースにした授業改善のための確認シート

わかる授業づくりのためのえびなスタンダード				指導上の工夫および配慮事項（例）
参加（活動する）	1	ルールの明確化	□授業を受ける時のルール（話を聞く姿勢、返事をする。挙手をして指名されてから発表する等）をはっきりと児童生徒に伝える。	・児童生徒が、自分の気持ちを伝えられるわかりやすい手がかりの提供 ・活動を遂行した際に、わかりやすい手がかりを用いての賞賛（例　活動を終え、着席したら拍手）
			□ ルールはシンプルにして、わからなくなったら参照できる工夫をする。	・絵、写真カードの活用（必要に応じて暗黙提示して確認）、確認の手立ての工夫、活動順番の明示（顔写真の活用）
	2	刺激量の調整	□ 授業に関係のない視覚刺激はできるだけなくす。	・パーテーション、模造紙、カーテン等で環境調整（目隠し調整）
			□ 授業に関係のない音刺激はできるだけなくす。	・教員の発語の精選（簡潔明快に！　キーワードの確認　　話過ぎ・説明過多に注意）
	3	場の構造化	□ 教室や使用物品、教材の整理整頓をする。	・シンプルな教室地図が描ける工夫（わかりやすさ⇨居心地のよさ⇨情緒の安定）、教材棚・課題棚・おしまい（終了収納）ボックス等の活用
			□ MT の位置や児童生徒同士の距離を適切にとる。	・MT と児童生徒とのアイコンタクトの高さや体の向きへの配慮
			□ 全員が MT に注目しやすい座席配置にする。机・椅子の高さを体に合わせる。	・着席時の足裏の安定性の確認、机・椅子の向きの調整、机上の整頓
			□ 児童生徒の視線・動線に無駄がなく、自然な流れをつくる。	・視線・動線上の阻害要因の確認、スタートポイント・ゴールポイント・待機コーナーの明確化（例　足形、ケンステップ、ブルーシートの活用）
			□ ST の配置を支援内容に合わせて適切にとる。	・TT が効果的に機能するための留意点（配置、手立て）の事前確認、児童生徒同士の関係性や安全面への配慮
	4	時間の構造化	□ 授業全体の流れに見通しを持てるような視覚教材を用意する。	・活動内容の流れ・手順を示した絵カード・写真カードの活用、活動の終わりの明確化(できましたカード)、個人用ミニスケジュールボードの活用
			□ 無理のない適切な時間配分で設定する。	・児童生徒個々の集中力の持続傾向の実態に応じて配慮（例集中力の目安１５分をめどに休憩時間を配慮）
			□ タイマーなどで時間の区切りがわかるようにする。	・電動タイマー・手作りタイマー・砂時計などの活用、BGM の活用（活動時間の区切りの音楽の合図を手掛かりに自発的な切り替えを促す）
理解（わかる）	5	焦点化	□ 授業の目標を絞り、シンプルなものにする。	・児童生徒が考える場面、自発を促す場面の工夫、授業構成のシンプル化【⇒６ 展開の構造化】
			□ 「よし、やってみよう！」と意欲を高める本時のめあての提示・確認の方法を工夫する。	・学習内容をフォーカスする提示の仕方の工夫（例何かな？・・・ブラックボックス型、手品型、なぞなぞ・クイズ型　etc.）　アンカーの打ちこみ
	6	展開の構造化	□ 山場から逆算して導入を工夫して、授業を構成する。	・板書（掲示）計画、教材〔課題〕提示計画の活用
			□ 授業の山場を意識して起承転結の構成を工夫する。	・山場（達成イメージ）の明確化のための具体的な手立て、本時の山場の焦点化【⇒５ 焦点化】
	7	スモールステップ化	□ 一連の動作や概念を細かく分解して一つずつ提示する。	・課題分析的視点の活用（ある行動が成立するためのプロセス段階や条件・課題の明確化、指導内容の焦点化・ステップ化）
			□ 前時の復習をしつつ、次時でプラスアルファを加えていく。	・児童生徒の興味関心・期待感を考慮、必要に応じて新たな条件を一つずつ付加
	8	視覚化	□ イラスト、写真を使う。	・わかりやすさ・見えやすさの工夫（例白色カード使用時の黒地背景の活用、色の組み合わせ etc)、必要性の高い視覚化の精選
			□　手指サインを使う。	・手指サイン提示と同時にサイン内容の言葉添え
			□ 指差しや赤枠等を活用する。	・注目点の確認（例指示棒の工夫、レーザーポインターやカラー手袋等の活用 etc.）
			□ モニター、プロジェクタ、電子黒板、実物投影機等を活用する。	・日光、天井灯の適正な光量の調整、児童生徒の視聴のしやすさへの配慮（画面の傾き・光の反射・音量）
	9	感覚の活用	□複数の感覚刺激を組み合わせて提示の方法や活動内容を工夫する。	・例　提示の工夫⇒提示カードの裏で鈴をならして注目を促す（視覚と聴覚の組み合わせ）
			□聴覚・味覚・嗅覚・触覚を刺激・活用する提示の方法や活動内容を工夫する。	・例　提示の工夫⇒ブラックボックス型提示（聴覚・触覚)、布隠し型提示（聴覚・触覚)、目隠し型提示（聴覚・味覚・嗅覚・触覚）
	10	身体性の活用	□ 聞くだけ・見るだけの時間を減らし、実際にやってみる。	・試行錯誤を大事なステップとし体験的学習過程の改善を図る工夫、児童生徒の実活動時間の確保
			□定着させたい言葉を手話やマカトン等の手指サインと合わせて呈示し､模倣するよう促す。	・はじめは、大きめの動作でゆっくりと。キーワードだけを発し、余分な言葉は制御
	11	共有化	□ ペア学習やグループ学習の場を設ける。	・指導形態の工夫（一人ひとりの良さが、より発揮できるペアリング・グルーピング)、グループ間の統合化
			□ 授業の最後に振り返りを発表する時間を設ける。	・一人ひとりの頑張ったところ、良かったところを具体的な内容で簡潔に（花丸カード、金メダル etc）TT の活用（複数の眼で）
			□ 取り組みの様子を撮影するなどして、全員で視聴する。	・自分や友だちの活動を客観視することを通して新たな気づきへ。（例　iPad・Apple TV の活用）
習得（身に付ける）	12	スパイラル化	□ 既習事項を活かした学習内容が授業の中に組み込まれている。	・前の学習段階で理解が十分でなかったことをもう一度学習することで自分のものにしていくことができるようにする。
			□ 授業の題材・単元に関連・系統性がある。(小中高の教育課程、教育内容表、年間指導計画)	・個々の学びの内容をマクロ的な視点から整理（⇨『生きる力』)、相互の学びの関連性の明確化
活用（使う）	13	機能化	□ 授業で学んだことを、日常生活で活かせる場面を想定している。	・よりスムーズに日常生活に活かすことができるようにするための学習内容の精選（個別指導計画との関連性・優先順位）
	14	適用化	□ 他の場面や設定でも応用する機会を設ける。	・学んだことの有用性が、実践化を通して再確認できる場の設定の工夫（⇨『生きる力』）

〈問合せ先・申し込み先〉
神奈川県立えびな支援学校（連携支援グループ）
〒243-0422
神奈川県海老名市中新田４－５－１
TEL　046-292-5618（相談直通）
FAX　046-292-5620
E-mail　soudan-ebina-sh@pen-kanagawa.ed.jp